

2011年9月8日

NEWS RELEASE



株式会社アマダ
担当 広報・IR 部

URL: <http://www.amada.co.jp>

〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田 200

ドイツ EMO ショーで アマダグループ独自のトータルソリューションを展開

アマダ（社長 岡本 満夫）は、9月19日から24日までドイツ ハノーバー市（国際見本市会場）で開催される EMO Hannover2011 に出展する。出展機はファイバーレーザーマシン、最新ベンディングマシン、サーボプレス、複合加工旋盤、研削盤、それに切削マシン合わせて12機種。4つの加工ソリューションごとにアマダグループ独自の加工提案を交じえ、新技術、新商品を紹介、欧州で新たな市場獲得へつなげる。出展ホールは世界中の工作機械の競合がひしめく旋盤館（ホール No.17）で、1,000㎡超えのスペースを確保しアマダグループの総合力をアピールする。特にインフラ、エネルギー市場で大型化する部品から安定した高精度・精密加工まで、新技術を搭載したソリューションで全工程にわたる加工を提案する。

今回の展示ではブース内に4つの加工ソリューションエリアを設け、業種別のワーク加工を通して新商品を展示。最新技術をアピール、難削材、特殊材へのエンジニアリング・加工技術を提案していく。

まず『複合・自動化ソリューション』では複合加工や自動化による工程集約で高効率・高精度加工を可能とするソリューションを提案する。出展機は1スピンドル2タレット複合加工機「S-10」と複合加工機「AD-18S」、2スピンドル2タレット旋盤「JJ-3」にくわえ、超硬丸鋸切断からバリ取り、旋盤加工までの連結作業を提案する「CMB-100CNC+複合加工機 AA-1」。

特に海外初の展示で注目される「S-10」は、様々な供給装置を選択することで、バー材、鋳物、鍛造等の異形状素材の6面加工を最終工程まで1台で加工できるロボット仕様の複合加工機で、10インチまでの部品加工に対応できる。展示会では油圧部品や自動車部品の

加工を実演し、1スピンドル2タレットと正面からの操作性機能を活かした生産性の高い同時加工や小ロット部品加工への使いやすい段取り替えを提案する。

『精密・金型ソリューション』では金型パンチからダイ加工まで一貫した金型加工をテーマとして、ソフトや計測装置を組み込んだソリューションで小物精密研削から平面・成形の中型研削までのトータルソリューションを提案する。特にこのコーナーで海外初出展となる中型平面研削盤「TECHSTER-84」は、機上計測した測定値を自動補正しながら最終仕上げまで連続加工する機能に加え、次製品の研削形状に合わせたといしのドレッサー機能も付加され、高精度でエコロジーなソリューションを実現します。その他、より複雑で特殊精密加工に対応した工具用グラフィカルプロファイル研削盤「DV-7M」、パンチや精密部品加工へのロボット内蔵グラフィカルプロファイル研削盤「DV-1」も展示する。ダイプレートの一貫加工としては高速・高精度バンドソー切断から切り出されたワークの平行度を容易に研削する両頭フライス「THV-430」と精密仕上げの研削盤「MEISTER-G3」を出展する。

『難削材ソリューション』では重工・インフラ・エネルギー市場への大型難削材加工をテーマに最高品質の超硬ブレード AXCELA を搭載したパルスカッティングバンドソー「PCSAW-720」を参考出品。AXCELA との相乗効果で難削材の高速・高精度、高面粗度、ブレード長寿命切断を提案する。加えて大手鋼材業を対象として、素材から切断製品の仕分け、バリ取り、マーキングを可能する周辺装置を組み込んだパルスカッティングバンドソーマシン「PCSAW-430+Robot+L/UL」による角材高速切断と自動仕分けを実演する。

『板金・プレス加工ソリューション』からは、自社開発の発振器を搭載した高速・高精度ファイバーレーザーマシン「FOL3015-AJ」と今回世界初のお披露目となる金型自動交換(ATC)を搭載したベンディングマシン「HD-1003ATC」、低速高エネルギーを確保し加工領域を飛躍的の向上させたサーボプレス「SDE-2025」を出品する。

「FOL3015-AJ」は薄板で毎分 100m という高速加工を実現、アルミ、真ちゅう、銅、チタンなどのほか難削材といわれる高反射材や異種材の連続加工が可能で、エネルギー効率が従来機比の 3 倍、電力消費量 1 / 3、メンテナンス作業の大幅削減も期待できる。

「HD-1003ATC」は加圧能力 1,000kN、曲げ長さ 3,000mm で、特に金型交換の多い多品種少量生産に効果を発揮する。従来、多品種少量生産では金型の交換作業が多く、その都度曲げ作業が中断され生産性の低下につながっていた。この新商品は自動金型交換機能が内蔵され、交換スピードが従来の 6 分の 1 程に短縮できるほか、コンピュータにより加工予定の製品に必要な金型やレイアウトを瞬時に自動判断、最高効率のステップバンドを可能

にする。作業者のステップベンド作業をフォローするオートスライドフード機能も搭載、あわせて3次元データの立体運用 VPSS や角度センサーによる自動角度だし機能で試し曲げレスも実現できる。ブースでは多品種少量部品加工を例にその能力を実演する。

サーボプレス「SDE-2025」では、高エネルギーを必要とされるステンレス材の絞り加工を実演。サーボならではの自由なスライドモーションの設定により加工領域を拡大させた。また、環境面では騒音、電力消費を抑えたエコマシンであることを訴求する。さらに、レーザー複合加工機で製作した積層金型でのサーボプレス成形事例を展示。アマダグループ独自の板金・プレス加工ソリューションとして提案する。

会場ではアマダのソリューションコンセプトである「加工領域の拡大」「変種変量生産」「エコロジー」の3つのコンセプトで、技術力、提案力をPRする。

以 上